

## 第2回 いばらき米の極み頂上コンテスト

### 県北地域の太子産米が最優秀賞（第1位）に輝く！

主食用米の需要が全国的に減少傾向にあるなか、水田農業については需要に応じた米生産が求められているところです。また、県北地域は中山間地域であることから、耕作条件不利地域とも呼ばれ、稲作経営の安定化等が懸念されているところです。

このようなことから、現在、県北農林事務所では、関係機関と連携して、付加価値の高い米づくりの取組を推進しているところです。例えば、「収量の増」から「食味の向上」への転換や、「多様化する消費者ニーズ」への対応として「有機米の栽培」への取組支援などを進めております。

特に、近年は、全国の米産地で良食味の付加価値の高い米づくりに関する競争が激化しており、県北農林事務所では、県北産米のイメージアップとブランド化を強化するため、お米の各種コンテストを通して、「県北産米のおいしさ」を広くPRし、認知度等を高める取組も進めているところです。

このたび、「第2回いばらき米の極み頂上コンテスト」が開催され、県内各地から81点の応募がある中で、県北地域（太子町）の生産農家の吉澤博文さんがローズドール賞（第1位）を、菊池章夫さんがプリューネ賞（第3位）を受賞されました。

#### —第2回 いばらき米の極み頂上コンテスト 最終審査会—

- ◇ 主催：茨城県
- ◇ 日時：令和4年12月8日（木）
- ◇ 場所：水戸京成ホテル
- ◇ 出品数：81点



賞名	賞の意味	生産者名	品種
ローズドール賞（1位） <b>—最優秀賞—</b>	金のバラ	吉澤 博文（太子町）	ゆうだい21
アルエット賞（2位） <b>—優秀賞—</b>	ヒバリ	飯村 昭司（城里町）	ゆうだい21
プリューネ賞（3位） <b>—優良賞—</b>	ウメ	菊池 章夫（太子町）	ゆうだい21

<参考>「ゆうだい21」は2010年に品種登録され、高温条件下でも外観品質が低下しにくく、食味は独特の柔らかい粘りがあるなどの評価があります。



吉澤 博文さん（1位）

#### 【最優秀賞：吉澤 博文さんのコメント】

・ゆうだい21は、今年から栽培を始めた。「食味」と「収量」とのバランスが難しいが、食味が落ちないように、収量がとれ過ぎないようにした。太子町は、おいしいお米がとれるところであり、今後も、協議会メンバーや関係機関と一体となって、おいしい米づくりに励むとともに、太子のおいしいお米をPRしていきたい。



菊池 章夫さん（3位）

<参考>受賞者の吉澤博文さんと菊池章夫さんは、「太子産米販売促進協議会」のメンバーで、同協議会は2007年に結成。食味や品質向上などを目指して米づくりに取り組み、これまでも各種のコンテストに参加し、太子産米のPRや販売促進にも力を入れてきた。「ゆうだい21」についても、同協議会のメンバーで約5年前から色々と工夫を重ねながら、収量よりも食味を重視した栽培に取り組んできた。

県北農林事務所では、稲作農家の所得の向上等を図るとともに、県北地域における農業の振興を図るためには、生産性の向上に加え、食味の向上等を含め、「付加価値を高めた農産物生産」の取組推進が、特に必要であると考えております。

このため、今後とも、引き続き、関係機関との連携により、現場における技術支援や、補助事業等を活用した取組支援、情報発信等の強化を図り、県北地域における「付加価値を高めた米づくりの取組」を推進してまいります。